



地域連携の部屋

このコーナーでは、徳島大学病院が徳島県や他の医療機関の皆様等と協力し、患者さんへのよりよい医療の提供を目指してすすめている、様々な取り組みについて取り上げます。

Vo.2

寄附講座Ⅱ

今回は、「ER・災害医療診療部」についてご紹介します！

■徳島県立中央病院と緊密に連携

テレビドラマや映画でおなじみの[ER(救急室)]とは、救急患者を受け入れ初期診療を行い、入院の必要がある場合は各科に振り分けていくというものです。それに対して[ICU(集中治療室)]は、内科系・外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性臓器不全の患者を収容し、強力かつ集中的に診療を行う部門です。そうした分野での医療の充実を目指して、2010年4月から徳島県立中央病院のERと徳島大学病院の救急集中治療医学講座の連携をより深め、救急・災害医療、集中治療のレベルアップ、人材育成に取り組んでいます。医療現場はどれもそうですが、「助けてナンボ」、患者さんをよくすることが何よりの喜びです。

ER、ICU共に分単位で決断が求められる、厳しいが魅力のある現場だということを若い人たちに伝えていきたいと思います。今は、医師研修体制についての協議が始まり、人的交流を深めていこうとしている段階です。医学生、研修医に救急医療、集中治療の重要性を伝え、今後研修の場を広げた魅力的な講座にして、徳島に根ざして地域医療に貢献してくれる優秀な学生や若い人材を育てたいです。ちなみに、いつの時代も基本となる教育理念は、「後輩の目標となる先輩」、「ベッドサイド教育」であ

り、「心と頭の両方とも熱い医者を惹きつけたい」と思います。ただし、昨今のことから、疲れ果ててしまわないよう配慮しないといけません(笑)。人材は一朝一夕には育ちません。地域医療を支える人材を、大都市からリクルートするのは現実問題として困難なだけに、地元で人を育てないといけません。だからこそ教育、育成部門が重要なのです。

■今後の目標と課題

救急、集中治療の役割は近年ますます大きくなっています。中央診療部門として貢献できることを自負し、誇りの持てる主体的な救急医療医、集中治療医の育成を目指したいと思います。また、南海・東南海大地震の危険度が毎年高まっている昨今だけに、大災害時の緊急体制についても対策が求められるようになるでしょう。

徳島の場合は県、消防との連携が取れており、主要な県内病院とも密接な関係が築かれています。過疎化や高齢化をはじめ人材的な面での層の薄さなど、マイナス要素の語られることの多い地方の現状ですが、その一方で地域ならではのコミュニケーションの緊密さや連携のよさなど、その特長を活かした取り組みをしていくことが大切だと思います。

「寄附講座」について

徳島県は、医師不足解消などを目的とした「地域医療再生計画」のひとつとして、2010～2013年度の4年間、運営費等を負担し「地域産婦人科診療部」「ER・災害医療診療部」「地域外科診療部」「総合診療医学分野」の4つの「寄附講座」を徳島大学に開設しました。「寄附講座」に所属する教員(医師)は、県立病院(中央病院、三好病院、海部病院)において診療活動を行いつつ、地域医療に関する研究を通じて同病院を支援するとともに、将来の地域医療を担う医師の養成に取り組んでいます。



説明は、
徳島大学病院 ER・災害医療診療部
特任教授

今中 秀光 (いなか ひであき)

■ 問い合わせ
救急集中治療部 Tel.088-633-9347